

デフリンピックとは？

「耳が聞こえない」という意味のデフ (Deaf) とオリンピック (Olympic) でデフリンピック。オリンピックと同じように4年に1度、夏季大会と冬季大会が2年ごとに交互に開催されます。

パラリンピックより歴史が古い!?



▲東京2025デフリンピックの大会エンブレム

デフリンピックの起源は、パラリンピック (1960年) より古い「国際サイレント大会」 (1924年)。パリオリンピックの社会的関心の高まりを活用して、同年に同じパリで開催された、ろう者のためのスポーツ大会です。東京2025デフリンピック大会は、100周年の記念すべき大会となります。

音の代わりに視覚で知らせる！



一般財団法人全日本ろうあ連盟

競技上に必要な音声や審判の合図を選手に知らせるために、フラッシュランプや旗を使用するなど、視覚的な工夫をした競技環境が整えられています (P5 参照)。



東京2025デフリンピック応援隊

大会を応援する地方自治体等のキャラクターが加入しています。三芳町の「みらいくん」、「のぞみちゃん」も応援隊のメンバーで、色々なイベントに出席して大会を盛り上げます。



▲I LOVE YOUの手話をするみらいくん (左) とのぞみちゃん (右)

エールでつながるデフリンピック



共生社会推進シンボルアート制作中!



姉妹都市ベタリンジャヤ市との友情を深め、2025年東京デフリンピック大会を応援し、芸術を通じて共生社会を推進することを目的として制作中。11/9 (日) にお披露目予定 (P8 参照)。

パティックアーティスト

Lim Anua (リム・アヌア) さん

ベタリングジャヤ市生まれのろう者でパティックアーティスト。「パティック」は模様部分を蝋で防染して染めるマレーシアの伝統的な染色法で、リム氏はこの図柄を基にした壁画なども制作しています。



9/26 (金)、東京2025デフリンピックの開催50日前に東京2025大会PRカーが三芳町役場に来庁。マレーシア選手団にエールを送る「マレーシア応援タオル」を掲げ、デフリンピックの開催に向けて機運の醸成を図りました。応援タオルは選手団のユニフォームにもデザインされているマレートラがモチーフになっています。「デフリンピック応援サポーター」 (P5 参照) 入会でプレゼント!

いよいよ11月15日 (土) から開幕する東京2025デフリンピック大会。日本で初めて開催されるデフリンピックで、100周年の記念となる大会です。

三芳町はマレーシア・ベタリンジャヤ (PJ) 市との姉妹都市の絆から、同市の出身のろう者でアーティストのリム・アヌア氏を招いて、共生社会を推進し、デフリンピックを応援するアートを制作しています。

また、三芳町は東京2025デフリンピック大会のマレーシアのホストタウンになっており、11月4日 (火) からデフリンピックアン達がキャンプを実施します。

今回の特集は「エールでつながるデフリンピック」。またとないこの機会にデフリンピックアンにエールを送り、デフリンピックを目標一杯楽しみましょう。



▲大会開催都市の東京都をめぐり、日本全国を駆け抜けるPRカー。